



作溝式播種機を用いた 春期牧草追播における入牧時草丈等が牧草定着に及ぼす影響

【1 成果の概要】

- (1) 春期における牧草追播処理では、播種時においては前植生を極力低刈(草丈 7cm 程度)することにより、38%の牧草出現率を得られます。(表 1)
- (2) 放牧地において牧草追播処理を行う場合、前植生の草丈が 36cm 以内で入牧することで、その後の 80%以上の牧草定着率を維持できます。(表 2)

表1 牧草追播時における前植生の掃除刈りの有無が追播牧草出現率¹に与える影響

| | 播種時 | 播種20日後 | |
|--------|-------------|-----------|----------|
| | 前植生平均草丈(cm) | 前植生草丈(cm) | 牧草出現率(%) |
| 掃除刈りなし | 18.0 | 44.8 | 3 |
| 掃除刈りあり | 7.3 | 21.8 | 38 |

¹ コドラート法(方形枠法)を用いて行い1m×1mの方形枠を10cm四方、100分画した中で追播牧草の出現した分画の数から算出した。(定点調査:n=各3)

表2 追播牧草の出現率の推移

| 入牧時草丈 | 牧草出現率(%) | |
|---------|---------------|---------------|
| | 初回入牧時 | 3回目入牧時 |
| 低(27cm) | 38 (100.0) | 39 (102.6) |
| 中(36cm) | 44 (100.0) | 36 (81.8) |
| 高(46cm) | 17 (100.0) | 4 (23.5) |

()内は播種後、初回入牧時の追播牧草出現率を100とした場合の相対出現率をあらわす。



写真1 作溝式播種機



写真2 施工後の状況

【2 留意事項】

- (1) 作溝式播種機はエイチゾン社製グラスファーマー(写真1)を使用し、オーチャードグラス(品種:バッカス、播種量:2.5kg/10a、作溝幅14cm)を播種したものです。また前植生は、オーチャードグラスを主体としています。